

<p>Check</p> <p><評価></p>	<p>これまでの取り組みによる成果と</p> <p>現状における課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●交通戦略策定後5年が経過した現時点で、策定後概ね10年後の計画目標の3指標について目標値を達成しています。 ●これまでの取り組みにより、一定の成果が上がっています。 <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通利用者の減少に歯止めがかかりました。 ・公共交通に対する市民の満足度が向上しました。 ●現状においては、次のようなことが懸念されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通利用者が、再び減少に転じ、公共交通空白地域が拡大する恐れ ・高齢化の進行により、自由に自家用車を利用できない人々の増加 ・自家用車依存に起因する地球環境への影響
--------------------------------	--	---

計画目標の達成状況

・計画策定から5年が経過した現時点で、計画目標の3指標をすべて達成しています。

■ 計画目標の達成状況

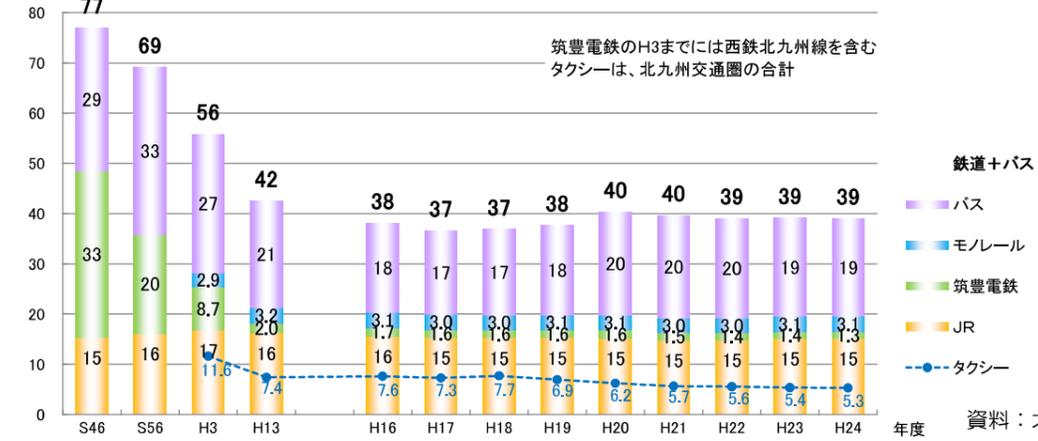
	交通戦略策定時	計画目標 (策定後概ね10年後)	現在 【 H24年度末 】	達成 状況
①公共交通人口カバー率	79.3%	現状の80%を維持	79.5%	○
②公共交通分担率	20.5%	現状の20%を維持	21.9%	○
③自家用車CO ₂ 排出量	69.7万 t-CO ₂ /年	約1%を削減 ▲7,000 t-CO ₂ /年	約2.4%削減 ▲16,400 t-CO ₂ /年	○

これまでの取り組みによる成果

公共交通利用者の減少に歯止め

・本市における公共交通利用者は、平成17年まで減少の一途をたどっていましたが、平成18年からは、増加または横ばいに転じており、総合交通戦略による成果が上がっていると考えられます。

■ 北九州市における公共交通利用者の推移



公共交通の利便性に対する市民の満足度が向上

・市民意識アンケートによると、公共交通での移動は便利であると感じる市民は半数を超え、その満足度は向上しています。H21年：51.4% → H24年：55.5%

・交通施策の実施による公共交通の利便性が向上したことを市民が実感していると考えられます。

現状における課題

公共交通利用者が、再び減少に転じ、公共交通空白地域が拡大する恐れ

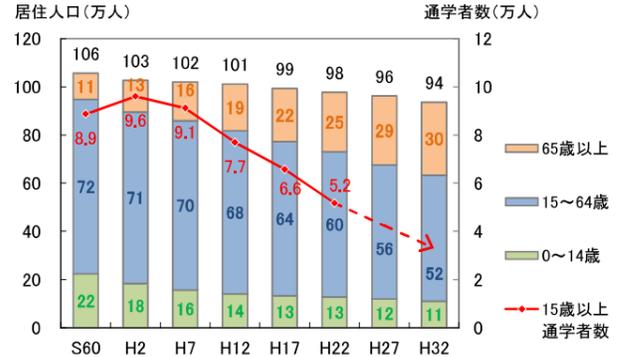
・本市の人口は減少し続けており、今後も人口の減少が予想されます。

・15歳以上通学者数の減少が顕著であり、生産年齢人口（15～64歳）も減少することから、通勤・通学における公共交通利用者の減少が推察されます。

・公共交通利用者は、減少に歯止めがかかったものの、再び減少に転じる恐れがあります。

・利用者が再び減少に転じた場合には、サービス水準の低下、さらには公共交通空白地域が拡大する恐れがあります。

■ 居住人口と15歳以上通学者数の推移



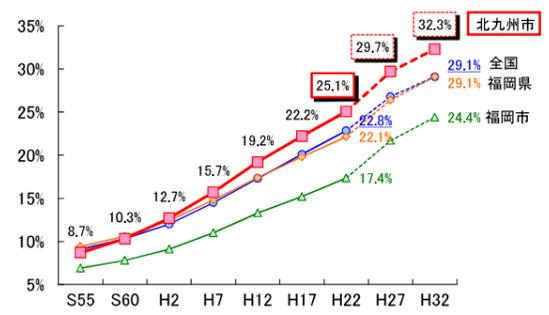
資料：平成22年までは「国勢調査」
平成27年、32年は、「国立社会保障・人口問題研究所」の
中位推計（平成25年3月推計）

高齢化の進行により、自由に自家用車を利用できない人々の増加

・本市では、全国平均を上回る速度で高齢化が進行しています。

・今後もさらに高齢化が進行し、自由に自家用車を利用できない人々の増加が懸念されます。

■ 高齢化率の推移及び将来推計



資料：同上

自家用車依存に起因する地球環境への影響

・本市は、他の政令市に比べ、自家用車への依存度が高く、公共交通や徒歩・自転車の利用割合が低い状況にあります。

・自動車利用への依存がそのまま続いた場合、地球温暖化の進行が懸念されます。

・公共交通利用促進に加え、徒歩や自転車といった地球環境にやさしい移動手段への転換が望まれます。

■ 通勤・通学時の利用交通手段<平成22年>



資料：国勢調査